

みんな同じ空の下、“普通”の君と  
自閉症の僕との未来はきつとつながる

ぼく  
**僕が**  
と  
**跳びはねる**  
り  
理由

30か国以上で出版された  
大ベストセラーを映画化

日本人の少年が紡いだ言葉が世界中の自閉症者と家族を救った —  
誰も見たことのない驚きと感動のドキュメンタリー

原作 東田直樹 『自閉症の僕が跳びはねる理由』  
(エスロアル、角川文庫、角川つばき文庫)

A JERRY ROTHWELL FILM

**THE REASON I JUMP**

BFI presents an IDEAS ROOM METFILM VULCAN PRODUCTIONS PRESENTS THE REASON I JUMP  
\* JERRY ROTHWELL PRESENTS THE REASON I JUMP  
WRITTEN BY SARA DE GLYCIERA  
DIRECTED BY WAINITA DESAI  
EDITED BY JODY ALLER  
PRODUCTION DESIGNER JEREMY DEAR  
EXECUTIVE PRODUCERS JODY ALLER DAVID CHARAP PAUL G ALLEN  
PRODUCED BY JEREMY DEAR STEVE LEE AL MORROW  
CASTING DIRECTOR WICK RYAN  
COSTUME DESIGNER SAM PATNE  
COSTUME COORDINATOR JOHNNY PERSEY  
PRODUCTION OFFICE WADAKI HIGASHIDA  
PRODUCTION OFFICE RUBEN WOODS  
PRODUCTION OFFICE SARA EDLSON  
PRODUCTION OFFICE JARRAT GARDI  
PRODUCTION OFFICE RUTH JOHNSTON  
PRODUCTION OFFICE PETER WEBBER  
PRODUCTION OFFICE JERRY ROTHWELL  
CARDLE TOMKO

VULCAN IDEASROOM metfilm KADOKAWA  
2018 サンドダンス映画祭  
受賞



# INTRODUCTION

自閉症者の内面を語った内容が大反響を呼び、  
世界30か国以上で出版された大ベストセラーを映画化！

『自閉症の僕が跳びはねる理由』（エスコアール、角川文庫、角川つばさ文庫）は会話のできない自閉症という障害を抱える作家・東田直樹がわずか13歳の時に執筆したエッセイ。他者との会話が成立しづらいため、今まで理解されにくかった自閉症者の内面の感情や思考、記憶を分かりやすい言葉で伝えた内容が大きな注目と感動を呼び、その後30か国以上で出版され現在117万部を超える世界的ベストセラー作品に。

サンダンス映画祭で観客賞受賞など、海外映画祭で絶賛！

このベストセラー作品をもとに映画化された『僕が跳びはねる理由』は世界最大のインディペンデント映画祭としても有名なサンダンス映画祭（第36回/2020年1月開催）ワールド・シネマ・ドキュメンタリーコンペティション部門において観客賞を受賞、更に同じく2020年10月に開催された第39回バンクーバー国際映画祭の長編インターナショナルドキュメンタリー部門観客賞とインパクト大賞のダブル受賞など、高い評価を受けた。2005年、わずか13歳の少年が紡いだ言葉が海を越え、今もなお世界中の自閉症者やその親たちに希望を与え続けている。

自閉症者が見つめ、感じ、生きる世界を通じて、“普通”とは何か、  
そして“会話”の大切さを描く、感動のドキュメンタリー！

この映画は自閉症者の内面がその行動にどのような影響を与えるか、また彼らにとって自閉症という障害が意味するもの、そして彼らの世界が“普通”と言われる人たちとどのように異なって映っているのかを、世界各地の5人の自閉症の少女少女たちの姿やその家族たちの証言を追い明らかにしていく、誰も観たことのない驚きと発見に満ち溢れている。

そして、「普通とは？」「個性とは何か」という普遍的な疑問、「会話（＝コミュニケーション）の大切さ」「多様性の重視」など…他者と分断されている今を生きる誰もが共感しうる、感動のドキュメンタリー映画である。





## 世界中で大反響!

### 東田直樹著『自閉症の僕が跳びはねる理由』と 映画『僕が跳びはねる理由』とは…?

映画『僕が跳びはねる理由』の元となった原作『自閉症の僕が跳びはねる理由』は作家・東田直樹がわずか13歳の時に執筆したエッセイ。理解されにくかった自閉症者の内面を、自らも重度の自閉症を抱える著者が平易な言葉で記した内容が大きな注目と感動を呼んだ。

その原作を英訳したのはデイヴィッド・ミッチェルとその妻ケイコ・ヨシダ。デイヴィッド・ミッチェルはトム・ハンクス、ハル・ベリー主演の映画『クラウド・アトラス』(2012)の原作などで知られるイギリスのベストセラー作家である。

日本に滞在していた経験もあるデイヴィッド・ミッチェル、自らも自閉症の息子を育てる彼らが、困り果てていた我が子の行動に対する疑問の答えを東田の『自閉症の僕が跳びはねる理由』の中に見つけ、「世界中の自閉症の子を持つ親にもこの本を読んで欲しい、伝えたい」という願いから翻訳を行ない、2013年『The Reason I Jump』として出版した。『The Reason I Jump』は瞬間に話題を呼び、現在では世界30か国以上で出版され、117万部を超えベストセラーとなり、今現在も話題を呼び続けている。

一方、2014年NHKが原作『自閉症の僕が跳びはねる理由』を取り上げ、「君が僕の息子について教えてくれたこと」として放映。番組内では東田直樹とデイヴィッド・ミッチェルが対面している模様も紹介された。その後『自閉症の君が教えてくれたこと』(2016)と翌2017年『自閉症の君との日々』(すべてNHK)と、3度に渡り本作が紹介された。

そして、この英語版『The Reason I Jump』が、本作にも出演しているジョスの両親(本作のプロデューサーを務めるジェレミー・ディアとステイーヴィー・リー)の目にとまり、映画『僕が跳びはねる理由』が誕生したのである。

### ◆自閉症とは…?

自閉症とは発達障害のひとつ。原因は特定されておらず、生まれつきの中脳神経機能の障害であると考えられている。「対人関係の構築が難しく集団に馴染めない」「強いこだわりがあり変化を嫌う」という二大特徴があるが、これが本人の生活に支障を及ぼしていなければ障害とは呼ばない。反対に、それによって本人が苦しみ生活にもさまざまな不自由がある場合は、医療や福祉のサポートが必要となる。精神科の分野における自閉症の歴史はまだ80年に満たないため、その概念は近年でも大きく変化している。広汎性発達障害、高機能自閉症、アスペルガー症候群などの用語も生まれては消え、現在では「自閉症スペクトラム」(スペクトラム=集合体)という名称を使うのが一般的。「自閉症スペクトラム」は、障害者と見なす必要のない人まで含むと、全人口の10%を占めるとも言われる。もしもそれだけの人数がいるとなれば、これを「障害」と考えるのは無理があるだろう。現在では、「症状」を「個性」と受け止め、発達障害を持つ人を社会的マイノリティとして支援する流れも生まれている。



Not being able to talk  
means not being able to share  
what you're feeling or thinking, so...

自閉症の僕と“普通”である  
みんなの未来はきつとつながる —  
“僕”たちが話したい・伝えたいこと

小さい頃は自分に  
障害があると知らなかった。  
なぜ気づいたか？  
“普通と違う”と  
みんなが言ったから。

僕は世界をどう見ているのか？

見えるものはみんなと同じでもそれをどう受け取るのかが違う。  
みんなは物を見る時まずは全体を見てから部分を見ていると思う。  
僕の場合はまず部分が飛び込んでくる。

見かけて判断しないでほしい。  
少したけ僕の言葉に耳を傾けて、  
僕らの世界を旅してほしい。

人と話そうとすると  
僕の言葉は消えてしまう。  
口から出る言葉は  
本心とは違う。

みんなの記憶は  
たぶん線のように続いている。  
でも僕の記憶は点の集まり。  
その全部がバラバラでつながらない。

時間はずっと続き、  
区切りがない。  
今言われたことも  
ずっと前に聞いたことも、  
僕の頭の中では  
あまり変わらない。

みんなはすごいスピードで話す。  
頭で考えた言葉が口から出るまでがほんの一瞬だ。  
不思議でたまらない。  
僕には知らない外国語で会話するような毎日なのに。

僕にとって自分の意思を伝えることが  
何より大切だったのだ。

僕らはきっと文明の支配の外に生まれた。  
多くの命を殺し、地球を壊した人類に  
大切な何かを思い出してもらうために。

「いいのよ、彼は、1人が好きなんだから。」  
何度も聞いた言葉だ。僕だって本当はみんなと一緒にいい。



普通の人である私に、驚きに満ちた〈自閉症〉の世界を魅せてくれた作品。限りなくリスペクトを感じる。それにしても、こんなイメージ豊かな人たちを〈自閉症〉というネーミングって考えてみたら、すごく違和感だよな。

原一男(映画監督) KAZUO HARA

感情に突き刺さるような美しさ!

— Variety

斬新で見事なカメラワークがあなたを異世界へいざなう。この映画はまさに他者を理解することとコミュニケーションの重要性について描いたパワフルな作品だ

— Screen Mayhem

この映画の旅は、場面や音、質感そして時にはまるで実際に手に触れるかの如く、あなたの五感を総動員して、自閉症者の世界に浸ることができる

— Backseat Mafia

彼等は、私達と異なる感性の扉を開き、未知の気付きを与えてくれた。高く高く跳んで、押し寄せる感情の縛りを解き放ってほしい。すべての人に安らぎを与える社会でありたい。

原日出子(女優) HIDEKO HARA

さみしさを、言葉にしてくれたから、愛しさになった。このさみしさを知っていた人は、どれだけ嬉しかっただろう。はじめて知った私も、いま、嬉しくてたまらない。

岸田奈美(作家) NAMI KISHIDA

「僕が跳びはねる理由」は今年公開される作品の中で最も緻密で強烈、そして感覚的な体験ができる作品になるだろう

— HeyUGuys

深く、感動的な体験!

— The film stage

# COMMENTS

自閉症の描き方が自然であり、この映画が自閉症を知らない人にとって知るきっかけの一つになれば良いと思います。

栗原類(俳優・モデル) LOUIS KURIHARA

この世界は本質的に不確かで抽象的だ。暗く広大な海に飛び込み、感性の原石を探そうと深く深く潜っていくような映画。絶えず我々を揺るがす矛盾の中で美しく生きるには。

驚異的な作品!

— The Hollywood Reporter

荒神明香(現代アートチーム目[mé]アーティスト)  
HARUKA KOJIN

わたしたちには誰もが自分の尊厳を保てる居場所が必要だ。文化や芸術こそが、意識と無意識に橋を架けわたしたちの居場所をつくる。五人の若者と支援者がどのように居場所を獲得してきたのか。その軌跡こそが未来の社会の光だ。

稲葉俊郎(医師)  
TOSHIRO INABA

「僕が跳びはねる理由」はあなたの考え方を変えるだろう。そう言える映画が果たしてどれくらいあるだろうか?

— Screen Daily

実に野心的な作品だ。本作は、我々の理解を求め、深い思いやりと感動の呼びかけであり、自閉症とともに生きる人々への絶大な支持を表明している

— Flickering Myth

東田直樹氏の原作『自閉症の僕が跳びはねる理由』がそうであるように、この映画は私たちに「普通とは何か?」という抽象的な疑問を改めて我々に問いかけている。自閉症と自閉症ではない人たちの世界を繋ぐ架け橋となる、優しい革命的な作品だ。

デイヴィッド・ミッチェル(作家) DAVID MITCHELL

※「自閉症の僕が跳びはねる理由」(東田直樹著)の英語版「The Reason I Jump」翻訳者、代表作に「クラウド・アトラス」など。



# 自閉症の人は 普通の人になりたいですか？

僕らがもし、普通になれるとしたら、どうするでしょうか。

きっと、親や先生や周りの人たちは大喜びで、「普通に戻してもらいたい」と言うでしょう。

ずっと「僕も普通の人になりたい」そう願っていました。

障害者として生きるのが辛くて悲しくて、みんなのように生きていけたらどんなにすばらしいだろう、  
とっていたからです。

でも今なら、もし自閉症が治る薬が開発されたとしても、僕はこのままの自分を選ぶかも知れません。

どうしてこんな風に思えるようになったのでしょうか。

ひと言でいうなら、障害のある無しにかかわらず人は努力しなければいけないし、

努力の結果幸せになれることが分かったからです。

僕たちは、自閉症でいることが普通なので、普通がどんなものか本当は分かっていません。

自分を好きになれるのなら、普通でも自閉症でもどちらでもいいのです。

(東田直樹著『自閉症の僕が跳びはねる理由』より)

## 東田直樹 プロフィール

1992年8月千葉県生まれ。会話の出来ない重度の自閉症でありながら、パソコンおよび文字盤ポインティングによりコミュニケーションが可能。2005年、13歳の時に執筆した『自閉症の僕が跳びはねる理由』(エスコアール、角川文庫、角川つばさ文庫)で、理解されにくかった自閉症者の内面を平易な言葉で伝え、注目を浴びる。著書にエッセイ『自閉症の僕が跳びはねる理由2』『跳びはねる思考 会話のできない自閉症の僕が考えていること』『あるがままに自閉症です』など、詩集に『ありがとうは僕の耳にこだまする』、山登敬之との共著に『東田くん、どう思う？ 自閉症者と精神科医の往復書簡』(すべて角川文庫)他多数。最新作は『世界は思考で変えられる』(河出書房新社)。



『自閉症の僕が跳びはねる理由』

[HTTPS://MOVIES.KADOKAWA.CO.JP/BOKUTOBI/](https://movies.kadokawa.co.jp/bokutobi/)

原作：東田直樹『自閉症の僕が跳びはねる理由』(エスコアール、角川文庫、角川つばさ文庫) / 翻訳原作：『The Reason I Jump』(翻訳：デイヴィッド・ミッチェル、ケイコ・ヨシダ)

監督：ジェリー・ロスウェル / プロデューサー：ジェレミー・ティア、スティヴィー・リー、アル・モロー / 撮影：ルーベン・ウッティン・デカンブス / 編集：デイヴィッド・シヤラップ / 音楽：ナニータ・デサイ

原題：The Reason I Jump / 2020年 / イギリス / 82分 / シネスコ / 5.1ch / 字幕翻訳：高内朝子 / 字幕監修：山登敬之 / 配給：KADOKAWA

上映  
日時

7/17(土)～7/23(金) ①10:00～ ②17:10～

7/24(土)～7/30(金) ①12:25～ ②19:05～

※7/17(土)、7/18(日) 10:00～の回、原作「自閉症の僕が跳びはねる理由」の著者【東田直樹】さんの  
ビデオ舞台挨拶付き上映を実施予定。各回定員 57 名様 (先着順)

前橋市千代田町 5-1-167-ツ前橋上 3F TEL. 027-212-9127 HP:maecine.com

休館日：7/20、7/27(火)